

テーマ「地域密着型の図書館づくり～立正大学図書館を事例として～」

講師：島田 貴司 氏 (NPO 法人 大学図書館支援機構 IAAL 理事 立正大学熊谷図書館)

日時：令和5年12月19日(火) 14:00～16:10

会場：Web開催

参加：26名

講演内容：

【はじめに】

1. 自己紹介 2. 事前アンケート (①地域連携事業②学生協働事業③業務経験)
3. 立正大学の紹介(品川キャンパス・熊谷キャンパス) 4. 品川図書館/熊谷図書館の紹介

【第1部】現在の大学図書館をとりまく状況～時代の流れと図書館職員の役割の変化～

■大学を取り巻く環境

1. 図書館業務従事者の推移 2. DXの流れ (※パラダイムシフト) 3. 少子化
- ※動画視聴あり①(文部科学省『学校における1人1台端末環境』公式プロモーション動画)
※動画視聴あり②(日本経済団体連合会「20XX in Society 5.0～デジタルで創る、私たちの未来～」)

【第2部】地域との連携の必要性和学生協働～文部科学省・社会からの要請～

■地域との連携の必要性和学生協働 1. 社会(例：経団連) 2. 文部科学省 3. 学生協働

【第3部】地域との連携事例1～立正大学品川図書館の取り組み～

アンケート結果<10件回答>

- ①今後検討したい50%・実施の予定はない40%・実施している10%
- ②実施40%(ボランティア・サークル)・検討20%(ボランティア・サークル)・検討10%(アルバイト)・予定なし10%・各クラスの図書委員10%・クラスの図書委員1名10%
- ③～5年60%・5年～10年30%・10年以上10%

- ・包括連携協定(品川区と大学)・子ども読書活動推進計画策定委員会への参加(品川区)
- ・学生協働を提案し品川区立図書館と連携(清泉女子大学とも包括連携協定)

【第4部】地域との連携事例1～立正大学熊谷図書館の取り組み～

■地域連携の取り組み <滑川町と立正大学の学官連携に関する基本協定>

1. 滑川町立図書館(滑川町図書館ポップコンテストとコラボ・読み聞かせ会等の参加)
※動画視聴あり③(大学生と作ろう!本のポップ教室/滑川町の小・中学生向け)
2. 滑川中学校×立正大学学生協働団体ぶっくま(滑川中学校職業体験受け入れ)
3. 熊谷市の小学生×立正大学学生協働団体ぶっくま(見学受け入れ：缶バッジ製作)
4. 熊谷市の公民館×立正大学熊谷図書(施設見学として図書館へ見学受け入れ)
5. SALA(埼玉県大学・短期大学図書館協議会)図書館と県民のつどい埼玉2023
(SALA加盟図書館の所蔵資料展示会/立正大学(ぶっくま)の缶バッジ製作体験ブース)

【第5部】地域連携の可能性を探る（環境・体制・制度等）～学生協働を前提として～

- 地域連携は職員＋学生協働（仕事量の観点）
- 職員のみで行う地域連携（図書館開放・サービス提供・講習会等の実施）
- 立正大学の学生協働の目標について
- 地域連携に学生協働が携わるメリット
(学生:社会人基礎力の育成/職員:学生のニーズを知りサービス向上(人材育成力が課題))
- 立正大学の学生協働（業務分担と実施時期を明確化/業務分担・経験者から学ぶ体制）
- 地域連携のための学生協働目標（エンゲージメント高く：ボランティア・サークル・バイト）
- 図書館職員に求められる能力
(経営管理能力・コミュニケーション能力・人材育成力・企画力・調整力・実行力)

【第6部】地域連携の可能性をさぐる（営業・広報等）～できるところから進めていく～

- 営業：包括連携先の自治体・近隣の小中高・大学図書館協議会 ■広報：SNS活用
大学図書館間の効果的な関係：複数の大学図書館で「コンソーシアムを形成する」
- 立正大学の例（Facebook・Instagram・Web マガジン・X）等のSNS活用と分析
※動画視聴あり④（立正大学熊谷図書館 web マガジン”りるじん”館長インタビュー）
・（SEO 対策）Google「学生協働 大学図書館」の結果で、大学図書館のトップに

ポイント：地域連携と学生協働を行うにあたって

できるところから・無理せず・先方のニーズと方向性をすり合わせ継続・SNS 継続活用

<今後について：将来目標>

鹿児島県大学図書館協議会×埼玉県大学・短期大学図書館協議会×地域連携×学生協働

◎国内初の地方自治体大学図書館協議会同士の地域連携（学生協働含む）のコラボ

<質疑応答>

【質問】地域の図書館が乗りやすい企画について

【回答】下記の通り

地域連携は学生協働と一緒にやっていくことが大きいと考える。大学も同じだが、地方自治体の図書館は人が少ない現状があることから、マンパワーが少ない。その部分をカバーしてくれるのが学生協働である。地域連携のメリットとして、

《学生》地方自治体の仕事に関わることで経験値が上がる

《大学》学生が社会での働き方を知ることで、成長できる機会を与えてもらえる

《地方自治体》マンパワーを提供してもらえる

取り組み自体は様々なものがあるが、学生協働と行うことで動きが出てくると感じている。

（自己紹介）

- ◇一般企業で SE（～2008）
- ◇立正大学図書館勤務（2008～）・海外図書館視察（2011 米・2012 韓）
・私立大学図書館協会東地区企画広報研究分科会（2012～2013）
- ◇大学院生（図書館情報学：博士前期課程）（2015～2017）
- ◇図書館課長（2017～品川→熊谷）◇大学院生（図書館情報学：博士後期課程）（2017～）
- ◇大学非常勤講師（2018～）◇埼玉県大学・短期大学図書館協議会研修会担当（2022～）
- ◇NPO 法人大学図書館支援機構理事（2023～）